



# 聖 峰

加賀市立錦城中学校  
学校だより  
令和6年3月②号  
文責 校長 公下 隆

校訓  
強く  
正しく  
美しく

**【学校教育目標】それぞれの個性を大事にし、心身ともに力強く成長し、未来を創る生徒の育成**

## 第77回 卒業式 3月9日(土) 卒業生 140名

当日は、朝から冷たい風と雪が降る寒の戻りのような天気になりましたが、2年生が準備をしてくれた講堂は、島谷教育長をはじめ来賓の方々、在校生、保護者の皆様に囲まれ緊張の中にも温かい卒業式を行うことができました。卒業証書授与の後、島谷教育長の告辞、土山PTA会長、坂下同窓会長より祝辞をいただき、無事卒業式を終える事ができました。そのころには奇跡のように



天候が回復し、在校生の歓送を終えて外に出た卒業生達は、生徒玄関前で保護者の方や教員らと写真を撮り談笑していました。張り詰めていた気持ちが和らいだのでしょう。

以下の文は、3年生代表宮崎さんの答辞です。当日は、この原稿以外に、自分の心に残っていた気持ちを加えて話しました。

### 「答辞」

十五年間、私達の成長を見守り続けてくれた熊坂川沿いの桜並木。漸く桜の蕾を膨らませ春の訪れを感じる頃となりました。本日、私達のためにご臨席くださいました皆様、誠にありがとうございます。只今、卒業生百四十名は、無事に卒業証書を手に入れました。



皆様からいただいたお祝いと激励のお言葉を聞く中で、錦城中学校で過ごした三

年間の様々な思い出が蘇ってきます。真新しい大きな制服に身を包み、入学式に臨んだ一年生の私達。学校生活では、何もかもがはじめてのことばかりで、戸惑うこともありましたが、親切な先輩方や先生方、仲間達に支えられ、入学前の不安も吹き飛んでいったことを覚えています。二年生となり、錦城中学校の中堅学年となった私達。先輩を支えること、そして、後輩を牽引することの大変さを感じながらも、勉強や部活動、リーダー会活動などに奔走し、充実した日々を送ることができました。そして、最高学年として過ごした今年一年間。時に楽しく、時に悩み、濃密な日々を過ごしてきました。その中でも、特に印象深く記憶に刻まれているのは修学旅行です。今年、コロナ禍が明け、久々にマスクを外し、仲間達と思いきり笑い合い、楽しむことができました。京都での自主プランでは、班の仲間達と「ああでもない、こうでもない」と言い合って、迷い彷徨いながらも、自分達のカで目的地を目指しました。普段の学校生活以上に仲間がいることの心強さを感じました。

また、広島での平和学習では、原子爆弾や戦争の悲惨さ・恐ろしさを目の当たりにしました。一方で、被爆者の方々に想いを寄せ、私達が、今後の日本、そして世界の平和を守り抜いていく責任と重要性を強く感じました。学校の中では感じることでできない達成感を得られたり日々の学びを実践することで再確認できた有意義な三日間となりました。体育祭では、初の試みとして、新競技や選択制の競技の導入など、新しい挑戦を行いました。また、三年生は、夏休み中から、クラスの仲間達と協力して様々な準備を進めました。後輩達にダンスを教えたり、リードすることに苦戦しながらも、クラス全員で支え合って優勝を目指したことは、かけがえのない思い出となりました。文化祭では、特別企画が復活し、各委員会、工夫を凝らした催しが行われました。合唱コンクールでは

どのクラスも最優秀賞を獲るために、毎日猛練習し当日はそれぞれのクラスが講堂にあざやかな歌声を響かせていました。生徒会としては、初めて伴奏者賞を制定したり、みんなが楽しめる劇を考えるなど、笑顔溢れる文化祭にするために、一ヶ月間生徒会メンバーと協力して準備を進めました。みんなで一つのものを作り上げる難しさとともに仲間と過ごす日常の一瞬一瞬の尊さを実感することができました。

しかし、三年間充実した日々を送ってきた私にも、一つ後悔していることがあります。それは、相手との意見の食い違いが生じた時、相手よりも、自分の方が正しいという「自分の正義」を貫いてきてしまったことです。そのことで仲間と衝突してしまうこともありました。自分の意見を曲げたくないというプライドと、仲間の大切な意見を否定することの息苦しさを感じており、その間で大きな葛藤がありました。そんなときに出会ったのがSEKAI NO OWARIの「Drago Night」という歌です。その歌の中に「人はそれぞれ『正義』があって、争い合うのは仕方ないのかもしれない。だけど僕の嫌いな彼も『彼』なりの理由があると思うんだ。」という歌詞があります。私は、この歌詞を聞いた瞬間、歌の主人公と葛藤の中でもがく自分の姿がずっと重なりました。私達は、正解のない、唯一解のない人生を歩んでいなくてはなりません。その中で、お互いの正義がぶつかりあうこともあるでしょう。しかし、どんなときでも相手の立場や思いを考えることが必要です。私達は、様々な人と共存し互いに支え合い、それぞれの「夢」へと歩いていきたいと思えます。

在校生の皆さん、部活動や生徒会活動などを通じて、私達三年生を支えてくれて本当にありがとうございました。これからの錦城中学校の未来は、皆さんの手に懸かっています。一年間一貫して取り組んできた「誰一人取り残さない全員が笑顔になれる学校づくり」を受け継ぎ、より活気に満ちた錦城中学校を築いていってください。最後に、今日まで、温かく親身になって接し、ご指導くださいました教職員の皆様、私達が快適に学校生活を送れるよう見守ってくださいました地域の皆様に心から感謝を申し上げます。

そして、十五年間私達を大切に育ててくれたお父さん、お母さん、幸せな日も悩める日も私達を常に支えてくださり本当にありがとうございました。感謝の気持ちで一杯です。沢山の人に見守っていただきながら、私達はこの錦城中学校を巣立ち、これからそれぞれの進路へと歩み始めます。これから様々なことを経験して、人として一回りも二回りも成長し、しっかりと恩返しをしていきます。

結びに、今後も歴史ある錦城中学校の良き伝統が受け継がれ、ますます発展していくことを心より祈念し答辞といたします。

令和六年三月九日

### ○栄光を讃える会（錦城栄誉賞授賞）

8日9時より、昭和45年から続く歴史ある「栄光を讃える会」を、菅本後援会長、坂下同窓会長を招いて開催しました。当日は錦城栄誉賞44名の受賞者を代表し、「優秀な成績」藤澤さん、「生徒会活動」宮崎さん、「3年間皆出席」河野さんに菅本教育後援会長より表彰状とメダルを授与していただきました。菅本会長からは激励の言葉として「思いやり」についてお話をいただきました。



### ○3年生を送る会

2年生の企画・運営による3年生を送る会が8日に講堂で行われました。2年生代表挨拶、劇、3年生思い出の作文、ビデオレター、1・2年生から合唱、一瀬先生の言葉、職員合唱、3年生からの挨拶とビデオレターなどがあり、卒業式前に楽しいひとときを過ごしたようです。

